



## 宮本運輸 ◆ 適性診断事業

新しいロゴマークを持つ宮本社長  
(左)と木野氏

# 特定運転者むけ開始

## 栃ト協の助成対象機関に

【栃木】宮本運輸（宮本一成社長、栃木県那須塩原市）は2月1日から、適性診断事業「NaMu（ナスム）」で初任診断や適齢診断、事故じゅっ起者に受診が義務付けられている「特定診断1」など特定ドライバー向けの診断と、カウンセリング付き一般診断を開始した。3月からは、地元栃木県トラック協会（吉高神健司会長）の診断受診補助の助成対象機関に指定されている。

（佐々木健）

## 診断結果からアドバイス

宮本運輸はドライバー30人を抱え、車両42台を保有。建材や浄化槽、農産物など

を関東・東北地方に運んでいる。2018年5月には、一般適性診断事業に参入。

9月には特定ドライバー向け診断の実施機関としての認定申請を、国土交通省に提出した。

適性診断の事業化は4年前に着手。宮本社長は「コンプライアンス（法令順守）の1環で漫然と診断を受けていた。今思つて使い方が

分かっていなかった」と振り返る。

こうした背景から、同社の適性診断事業では通常の一般診断でも、受診者に対して1人10分程度の簡単な結果説明を実施。診断結果から、ドライバーの性格から出る運転の癖を分析できるため、適性診断事業を担当する木野一弘氏は「カウンセリングではないが、短いアドバイスをしている。結果をもらって終わりでは、受診する意味が無い。事故を起こさない、遭わない運転を心掛けて欲しい」と話す。

特定ドライバー向け診断の開始に合わせ、ロゴマークを変更。名称の由来は「那須を無事故に」からだ。が、「那須から全国を無事故に」との思いで、元のマークに日本列島を重ねた。

今後の展望について、宮本氏は「適性診断事業では、十分なサービスが提供できるようにになったと思う。次の課題は、受診する側の活用の体制をつくることだ」と語る。具体的には、診断結果を各事業所の運行管理者とドライバーが共有し、安全教育で活用する体制の構築支援に取り組みたいと考えている。

宮本氏は「ドライバーの事故防止に必要なのは、プロドライバーの自覚と誇りを持つこと。プロ野球と草野球が、同じ野球でも全く違うように、運転に対する自覚をプロに身に付けて欲しい」と語る。